

加工用中輪ギクの生産拡大 ～出荷目標 20 万本を達成～

農業革新支援センター

【普及活動のねらい・対象】

平成 29 年度から県域で推進している加工用中輪ギク生産振興を行うため、平成 30 年度は 20 万本の出荷を目標に活動を行いました。

平成 29 年度は、出荷目標の 10 万本を達成したものの、夏作の高温による奇形花や、冬作の花首徒長等が課題として残りました。そこで、今年度、革新支援センターでは、県内キク生産者および生産指向者を対象に、生産拡大と併せて切り花品質の向上に取り組みました。

【普及活動の内容】

(1) 品質向上対策

近年は夏期高温で推移しており、高温対策が急務と考えキク栽培ハウス全てに遮光資材の展張を目指しました。遮光資材の展張には、導入コストがかかるため、実際に資材を導入したハウス内で研修を行うことで遮光資材の効果を体感してもらい、平成 30 年度作からの導入を提案しました。また、その他育苗期の高温対策や花首徒長対策についても、昨年の反省をもとに技術改善を行い現地への導入に取り組みました。



写真 1 高温対策研修 (6/25)

(2) 生産拡大

平成 31 年度の出荷目標 30 万本の達成に向け、31 年度新規栽培志向者および平成 30 年度新規栽培者を対象に、市場および実需(花束加工業者)での加工流通研修を行いました。研修会では市場と実需の双方から滋賀県産加工用中輪ギクに対して好評価をいただき、生産者の自信と生産拡大への意欲につながりました。



写真 2 生産拡大研修 (10/15)

【普及活動の成果】

平成 30 年度は、全生産者で遮光資材が導入され、夏期の異常な高温で他産地の開花が遅れる中、滋賀県産は 8 月需要期出荷率が 89%と好成績となり、冬作も含め出荷本数 20 万本を達成しました。また、平成 31 年度生産拡大に向けては、継続した新規栽培者獲得や面積拡大の推進を行い、目標達成に向け順調に進んでいます。

◎対象者の意見

中輪ギクは今年度初めての取り組みで不安であったが、県域の研修会など生産販売体制が整っていて安心でした。今後も面積を増やしていきたい(新規栽培者)。